

## ゲルダ リトアニア出身の元キリスト教徒

:

明:  
キリスト教徒として育ち、神への 固とした信仰心を持つゲルダは、常に神の存在を していましたが、イスラ ムを つけるまでは人生に 足出来ていませんでした。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ゲルダ

06 May 2013

集日 06 May 2013

私は、キリスト教が多数派を占め、子供は生まれてすぐキリスト教徒となるリトアニアという ヨ ロッパの小さな国で生まれ育ちました。私は 神 者だったことはありませんが、自分を良いキリスト教徒だと思ったこともありません。私は 日曜日に教会に通っていましたが、それは日曜礼 のためだけでなく、牧 の手助けをしたり、 歌 で歌ったりするために、そういったときに最も心のなかに神の存在を感じることができました。とはいえ私は に、なぜ私がキリスト教徒になりたいかどうか 可を得ることもなく洗礼を行ったのか ねたりもしていました。

私が する限り、私は良いキリスト教徒であったことも、キリスト教そのものの意味を理解したこともありません。ただ、私は何かを探し求めていました。私は牧 の助けを借りながら、キリスト教に する本を 山 みました。私は かが私のことを 守り けていることを感じ、それを信じていたと言えるかも知れません。しかし自分をキリスト教徒と 名 ることは出来ませんでした。

全能なる神の きのない人生は困 で、恐ろしく、孤独なものでした。私は神を探し求めていましたが、神を非常に近くに感じていました。私は神の助けを常に感じており、あたかも しかけられているかのようでした。神は私の世 をし、私を び、人生の道を 付

けさせてくれたのです。私は神が 日のように示してくれる印の理解を心がけており、神に しかけられているかのように思えました。

私は家族で2番目の子で、母が言うには出 産の痛みは私のほうが最初の子よりも かったそうです。 、私が出 産を生き延びたのは幸 だったそうで、神は私の生命を助けてくれたのです。その 後の人生で起きた、生き残るのは不可能だと言われた2度の重大な事故を生き延びた 、私は自分の生命を本当に感 ずるようになりました。人 の生命はとてもはかないこと、神こそが寿命を司っていることを 感じました。

私は神に四六 中、信 を寄せ、そのことは私が病 だったり 子が い でも人生を しませてくれました。私は神がすべてをお みになってくれていることを知っています。私たちが 恩 に沐されていることを理解し、そのことを感 ずることを神はお望みなのです。

私は卒 業の直 に交通事故にあい、最低6 月は寝たきりになると言われました。私は と腕だけしか かせませんでした。神の助けによって卒 業、寝たきりのまま大学に入学することが出来ました。私の主治医さえ、そのことを信じるが出来なかった程です。大半の人々は、苦痛に叫び、寝付くための睡眠 を催促するような状 だったそうです。それが出来たのはただの幸 ではなく、神による奇 でした。この 、私の信仰心は 幅しましたが、「か」が私を教会から ざけていました。私は今、そのことが理解出来ています。私にとって、教会は神への道ではなかったのです。

私が きに渡って探し求めていた、魂の安 静を た本当の幸福へ唯一の道である、神の真の理解は、私の夫を通して つけ出しました。私たちが出会った も、神の奇 のひとつでした。始め、私たちは宗教について一度も しませんでしたが、それについての食い いもありませんでした。ある日、私は旧友と会ったことから非常に好 嫌でした。そのとき彼（当 時はまだ 婚していませんでした）は、彼の人生のなかでも最良のもの 信仰を私にしてくれると言ったのです。その日、神は正しい言 を彼の口から せさせ、彼が クルア ンについて、またその中に かれてある奇 について、そして祈りの の一 の 作の意味について ることに、私は 味をかき立てられたのです。この件についての会 は一度きりでしたが、私が手に取ることの出来るすべての本を ませるのには十分でした。すべての

本のすべてのページで、私は自分の人生に欠けていた何かについて、つまり私が 去に牧から求めていた疑 の答えについて理解し始めました。それらの本は私に りかけました。神はそれらを通して私に しかけていたのです。私は多くの疑 の答えを つけ出しました。私の魂には安らぎがもたらされました。

私は数カ月前にムスリムになりました。それは信仰心の 活という素晴らしい奇 です。神は私を されており、私は21 にもなって「生まれ わり」ましたが、この年 だからこそ、そのかけがえのない恩 を授かったことに感 することが出来るのだと思います。私の周りの人々は も、ムスリムになることの素晴らしさを信じるが出来ないようです。

神は、同じ太 でも、私がキリスト教徒だったときに ていた太 とは なる 方をさせてくれました。私にとって今や、太 には った意味があります。神は日光を送ることによって、我々への思いやりや、 情がいかに大きなものなのかを分からせてくれているのです。神の慈悲によって、私たちは えませんし、世界を 富な色彩によって目にすることが出来ます。神はその光がいかに素晴らしいものなのかを示すために夜を りました。神は、 く寒い夜のあとに美しく清々しい朝をもたらすことによって、神への信 感を私たちに授けてくれました。このように、神は私たちに印を示しています。私たちは神の 奇 を るために、 目を授けられたのです。

私は世界の新たな 点という神の り物を喜び、感 しています。ようやく私は自分の人生に感 出来るようになったのです。神は私の人生に新たな光をくれ、私は周りのものごとを新たな 点で ることが出来るようになりました。何をしようが、どこに行こうが、神は私に「ようこそ」と りかけるかのようです。神が示してくれる奇 によって、私は自分が正しき道にいること、そして神が（その知 において）私と共にいることが分かります。世界そのものが一日で わったわけでも、21年で わったわけでもありません。わったこととは、神が私の心に神への本当の理解を授けてくれたことによる、私の人生の なのです。

私は世界全体も わってくれることを います。人々は 世的な成功から安らぎを求めることに疲れ、怒っています。人々はお互いを憎み合うこと、嫉 し合うことに疲れきって

います。 国家は争いによって生き延びようとしています。平和の中に生きようとしても、争から逃れることは出来ないかのです。日に日に、世界はどんどんと深みに沈んでいっています。イスラ ムを人 の道として受け入れることしか、それを止める手段はありません。人それぞれの心に宿る 、そして神の知 によって、私たちが えるような幸せな人生がもたらされるのです。そうして私たちは子供たちへの明るい未来を きあげること、そしてお互いを怖れることなく一つの人 として共存することが出来るようになるのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/1532>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。